

教宣 せぶん

東海支部からのバトン

私たちのたたかいを全面的にご支援いただいている東京海上支部が、9月末日をもって、そのたたかいの歴史に幕を閉じるとお伺いしました。とても残念な気持ちでいっぱいですが、先日、最後の大会となる第161回定例支部大会(9月9日開催)の議案書をいただきました。

議案書には、東海支部の歴史について「戦後の全損保結成から今日まで足掛け60年、その一支部として東京海上の職場に旗を掲げ、産業の健全で民主的な発展、労働条件の維持改善に大きな役割を發揮してきました。とりわけ、会社の組合分裂攻撃を乗り越えて組織の再編を果たしたのちも40年を超えるたたかいの日々のなかで、賃金制度と労働時間の課題に果敢に立ち向かい、雇用を守り延長させるたたかいなど、全従業員の要求を取り上げて役割を發揮してきました。」と書かれています。私たちは、この文間に、東京海上経営の理不尽で不当な攻撃を前にしても、怯まずに正面から立ち向かっていった先輩たちの勇気や、知恵や、行動力が、たつぷりと詰まっていることを知っています。

地位確認訴訟の何回目かの弁論が開始される東京高裁前でビラを配っていた時のことです。大阪から駆けつけてくれた東海支部OBの方が隣りで一緒にビラを配ってくれました。この先輩は、少しでも多くの方にビラを受け取ってもらおうと、道行く人の目の前までビラを持っていきました。大きく踏み込むため、反対方向から来る方に何度か突き飛ばされることがありました。しかし、何回も突き飛ばされても、私たちのたたかいのビラを配るため、大きく踏み込むことをやめないこの先輩の姿を直視し、とてつもない大きな思いやりを感じたことを覚えています。

人は苦労を積み重ねれば重ねるほど他人の痛みがわかると言いますが、いま私たちのたたかいに際し見せていただいている、この先輩に象徴される東海支部やOBの方の大きな思いやりは、きっと差別や攻撃を繰り返されてきた東海闘争を始めとしたたたかいで培われたものだと思います。東海支部はそのたた

かいに幕を閉じることになりましたが、引き続き、東海支部 OB として、同じ経営者と対峙している私たちのたたかいをご支援していただけるそうです。とても力強く、ありがたいことです。心から感謝いたします。

東海支部の先輩たちがこの企業の歴史のなかに着実に刻んできたたたかいの足跡や、権力におもねることなくたたかってきた魂は、私たちがしっかりと受け継いでいきます。引き継いだバトンをガッチリと握りしめ、不当な攻撃をあきらめない東京海上日動経営とたたかっていきます。